

シリーズ 学校最前線

大阪府立東百舌鳥高等学校
国立教育政策研究所の教育課程研究指定校に選定される

大阪府立東百舌鳥高等学校 稲川 孝司



はじめに

平成三十年四月、大阪府立東百舌鳥高等学校(大阪府堺市、石田利生校長)は、国立教育政策研究所(以下、国研)の教育課程研究指定校事業で「総合的な学習の時間」の研究指定校に選ばれ、「学びに向かう探求学習の研究・開発及び評価」という研究主題で、二年間の研究を行うことになりました。

研究指定校事業について

国研の教育課程研究指定校事業というのは、学校における学習指導の改善充実および教育課程の基準の改善を目標に全国の学校から公募を行い、書類審査を受けて選定されます。選定後は、教科調査官の訪問と研究協議、発表ならびに報告書を提出することが求められています。

研究指定校応募日程について

毎年ほぼ同じ時期に募集がありますが、平成三十年度の募集と手続きは以下のような日程で行われました。

- ・平成二十九年十二月六日、国研は各教育委員会に研究指定校事業実施の照会文を送付
- ・平成二十九年十二月十一日、大阪府教育庁は通知文を各学校に送付
- ・平成三十年一月四日、希望調書大阪府教育庁に提出
- ・平成三十年一月二十九日、大阪府教育庁から内定の通知
- ・平成三十年四月十七日、実施計画書、経費積算見込書、学校訪問調査票を大阪府教育庁に提出
- ・平成三十年四月二十日、文部科学省での研究協議会に出席

学内の特徴的な活動

本校にはピア・サポートのトリーナー資格を持つ教員が三名おり、「仲間を支え、安心できる関係性を作る力(ピア・マインド・セット)を育む」をモットーに、平成二十一年からピア・サポート活動を継続して行



3年生による総合的な学習の授業

なっています。有志の生徒を対象に主に放課後の時間を使って「ピア・サポート研修」を年間二十時間行い、これまでに生徒七名がピアサポーター資格を取得しています。

研修参加の生徒は中学生向けのオープンスクールや新入生歓迎会などの学校行事で活躍しています。また、一年生の総合的な学習の時間の授業では、三年生がピア・サポートの授業を企画し、実践しています。

一方、平成二十三年度から三年間は大阪府教育委員会の「使える英語プロジェクト」、平成二十五年度文部科学省教育課程研究指定校「情報」では「情報技術を活用した効果的なコミュニケーション」能力を育む指導方法等の工夫改善についての研究、平成二十七年から二年間のパナソニック教育財団特別研究指定校では「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価」、ならびに総務省先導的教育システム実証事業などの研究や実践授業を行ってきました。

特に、パナソニック教育財団

研究指定の成果として、本校のアクティブ・ラーニングのスタイルである「授業の最初にめあてを示す(プロジェクト活用)」「生徒の発言場面をつくる(思考を伴う議論・発表・記述などの言語活動)」「授業の最後にめあての達成度、感想を書き込ませる」の三点を確立することができ、評価方法においても観点別評価、パフォーマンス評価やイ・ポートフォリオを活用した実践を積み重ね、知見を得ることができています。

応募動機と研究主題

応募動機の第一は、今回の高等学校学習指導要領改訂の内容を踏まえ、「知識の理解の質を高め資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びの実現」という新しい学びについての教育課程の基本的な考え方を全教員に理解してもらう点です。

第二は、現在行われている「総合的な学習の時間」の内容を、国研の教育課程研究指定校として学校全体で組織的に「総合的な探求の時間」として探求学習

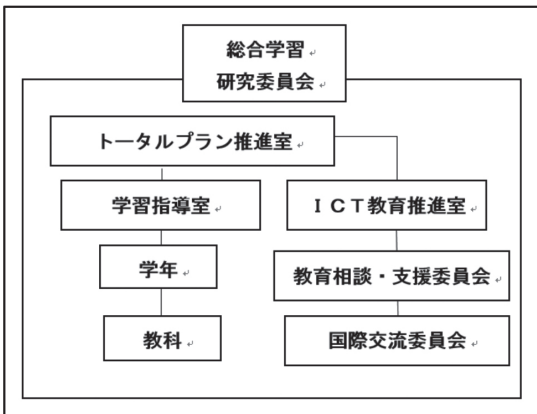
を行い、生徒の資質の向上とその評価方法等を実践・研究しようという点です。

第三は、本校では「ピア・サポート活動」と「ICTを活用したアクティブ・ラーニング」の活動を積極的に行っており、これらを生かそうという点です。以上から、「総合的な学習の時間」で「学びに向かう探求学習の研究・開発及び評価」ピア・マインド・セットを持ち、SDGsに取り組み探究学習」を研究主題としました。

「学びに向かう探求学習」では、「コンピテンシーとしてのピア・マインド・セット」を育むことで、「グループの中で他人と協力して問題を解決する力を育てることができる」という仮説を立てて研究・開発に取り組むことにしています。これは、OECDが実施した調査の「協同問題解決能力」※において日本は成績がトップであり、アンケートで「人の話をよく聞く」に肯定的な答えをした生徒の得点が高い傾向にあったことを根拠としています。

研究体制

校内の研究体制を左の図に示します。今回の研究指定校事業を進めるに当たり、総合学習研究委員会を立ち上げ、その下に各種委員会組織を有機的に結び付けています。そして、外部である学校運営協議会のメンバーや実習でお世話になっている近隣の特別養護老人ホーム・子育て広場などの施設や設備、人的資源を活用して、学校内だけではなく、社会的な結び付きを活用しようと計画しています。



一年目は「SDGsに基づいた

関心領域の発見」と「ピア・マインド・セットの醸成」をテーマとしていきます。体験的にSDGsへの理解を深め、関心領域を見つけ、自分の興味・関心を発見する。その過程で「学び合う仲間として安心できる関係とは何か」について考えさせます。

二年目は選択する五つの専門コースに関連させて「関心領域を掘り下げる」として「生き方としてのピア・マインド・セットのあり方」をテーマとします。そして、観点別評価を行い、「ピア・マインド・セット」や「学びに向かう力」などの評価規準を作り、これらの力がどの程度身についたかについて評価を行うとともに、評価規準の妥当性についても検討し、総合的な学習(探求)の時間の評価方法の確立をめざしていきたいと考えています。

【参考文献】

- OECD生徒の学習到達度調査(PISA)二〇一五年